

A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
向かうべき保育の方向	法人理念	子ども一人ひとりに寄り添い大切に育てる	応答的な関わりは意識できる保育士が増えた事で、気持ちの汲み取りや伝え方、折り合いを付ける事に対しても子どもの気持ちを尊重しながらもしっかりと伝えられる様になった		○			子どもの気持ちを尊重し、応答的な関わりが全体で出来ているが、伝え方、言葉の選び方を意識する必要はまだまだあるので、来年度は子どもの人権をよく考え、自分に置き換えて子どもの立場に立った声掛けを意識していく
	園の基本方針	子ども一人ひとりの発達や成長、その手を取り巻く環境を理解し、その子の少し先を見据えた「今」を大切に温かく丁寧な保育をする 未来を生き抜く為にたくましい心と体を作り、想像性豊かに考える事ができるよう保育する 安心して子どもを預ける環境を作り、親が自ら子どもと遊ぶ、よく食べ、よく眠り、健康でたくましい体と心を持つ子ども・いろいろな人と関わりを重ね、自分も友達も大切にすることも・自然などの身近な環境に好奇心を持ち挑戦できることも・見通しを持ち自分の力で自主的に行動できることも	保育士自身が主体的に動ける様、その日その日に「ねがい」を持って過ごすようにし、今日の改善点を次の日や今後に生かせるように日誌に入れるようにした 日のねらいをたてた事で意識できる保育士が増えているが、ねがいの内容が子どもの姿とずれてしまう保育士や全体的な計画から月案、週案とつながりのある計画が難しい保育士がいた 年上の意識や小さい子を大切にすることにも自然と他クラスと一緒にあったり、保育に入れるように声を掛け合った クラス間のつながりが自由あそびの時間など昨年より意識して入っている機会もあったが、誘い合う事や自然と一緒に過ごすことなどは保育士同士もクラスの意識が出てしまったのか難しい場面もあった		○			他クラスとも意見交換しながら「ねがい」が子ども達に見合っているか、ねがいを達成するための見通しや、つながりを意識できているかなどを注意して週末MTで全体で声を掛け合っていく また、他クラスとの意見交換から自然に横のつながりが出来て、一緒に過ごす時間や年上の意識、物事に意欲的に取り組む気持ちに自信がつくようにしていく ドキュメンテーションをどの職員も分かりやすく展開や今後の方向性が分かるように作れるようになる事が来年度の課題 ねらいを通したドキュメンテーションを作る事で視点を絞って作る事が出来、どの職員でも誰が見ても分かりやすく作れる様になる事が目標
	園の目指す子ども像	子どもをよく観察し、その思いに応答的に関わる様、常に考えていく・子どもの思いを尊重、共感しながら子ども達なりに表現できるよう環境を整えたり、気持ちの折り合いを付ける援助をしていく・願いを持った保育をする・保育士が主体的に考え行動する・主体性が育つ環境を整える・大きい子どもに憧れをもつよう心をくすぐる保育をする	子ども理解が深まる様ドキュメンテーションを用いて研修や話し合いを行い、保護者にも伝わる様に配信や掲示を行った ドキュメンテーションを作る事にはだいぶ慣れ、保護者も見ても子どもとのコミュニケーションツールとしては活用できていると感じるが、内容は保育士によってはもう少し視点や展開等わかりやすく具体的に伝えられる必要がある		○			
	園の求める保育の視点							
保育について	子どもの人権	子どもの人権を意識した保育がされている	応答的な関わりや気持ちの折り合いでも子どもの気持ちや言葉に出来ない気持ちまで考え、受け止めた上で保育していく		○			0～2歳児の3年間のつながりをしっかりと意識した保育を出来るように全体的な計画や、月案週案などでも意識していき、現状の子ども達に合わせて変更していけるスピード感を来年度は考える
	0歳から積み重なっていく発達を学年をまたいで考えられる	0歳から就学前までの発達が理解できており、個や異年齢の関わりを大切にしたい保育や保育の連続性を考慮した保育が行われている	0歳児が成長やその子の興味に合わせて環境や遊びを展開出来た事で土台が出来てきているが、1、2歳児が上手く繋がらずつながる保育には現状の子ども達に合わせたねらいや環境を作る事が必要 日々の振り返りは週末MT等を通して出来ていたが、個々の発達を見極める事、つながりのある計画を考える必要がある			○		物的環境については引き続き環境リーダーを中心に振り返りながら継続していき、人的環境については全体で保育士自身が楽しみ、主体的に考えられるよう研修を行っていく 机上あそびについては子ども達も楽しめているが、もっと集中して効果的に楽しむ為にも保育士がねらいや遊び方をしっかりと把握して遊びを展開していく
	つながる保育	日々保育の振り返りが行われ、今後の保育へつながるよう計画されている				○		
	生活リズムの確立およびリズムの多様性への配慮	安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるように子どもの目線になり落ち着ける時間や空間(環境)が保障されている 育ちや発達に考慮した関わりを行っている	環境リーダーを中心に定期的な環境の見直しを行い、子どもの興味や発達に合わせた環境を考えられる様になってきているが、環境自体がタイムリーに進まなかったクラスもある 机上あそび等集中する遊びについては、遊びこむ為には保育士がねらいや遊び方などを全体で周知した上で遊びにしていける必要がある		○			
	環境を大切に考える保育	自らあそび、チャレンジし、発想を広げられるような環境が整えられている				○		
安全管理	マニュアル理解	安全計画や災害・事故防止マニュアルは実効性があるものが策定されており、職員が内容を理解し定着対応できるような取り組みができています	毎月のMTで担当を決めて確認を行った事で、担当になった部分をしっかりと復習し、説明できるように考えて行う事ができた 時間が足りず急いだ研修や受ける側の気持ちが自分事に捉えられない時もある		○			マニュアル研修は回数を限定し、時間をしっかりと取り、確認したい所を全職員からあげる事でより中身の濃い研修にしていきたい また、受ける側も自分の確認したい事を挙げる事で主体的に参加出来るようにしていく
	事故防止	日々のヒヤリハットを集め共有し、園の子どもの特性を知っている 気を付けることや改善することを共有実践し大きな事故につながらない	ヒヤリハット係の声かけで月の頭や声かけの後には記録を上げられているが、時間が経つにつれて数が減るのは意識が薄れてしまっていると感じる ヒヤリハット内容をMTで話し合う事で共通意識は出来てきていた ルクミー一斉配信を行うようになったが、すぐに対応できるように保育士が慣れる必要がある			○		保護者にも行う避難訓練は、声掛けがなくても気付いてもらえる様、配信や掲示を分かりやすくしたり、連絡帳も利用していく保護者自身で気付いてもらえるような工夫を考えていく ルクミーを導入した事で一斉配信での保護者への知らせが出来たようになったが、すぐに対応できるように保育士自身が何度も練習し慣れていく
	防災	様々な災害を想定した訓練を行い、全職員が状況に応じた的確な行動がとれる 保護者にも災害に対しての知識を伝えている	保護者の配信確認が声かけが無いと難しかった 配信や掲示等もっと周知させる必要がある		○			避難訓練毎に反省は全体で振り返りが出来ていたが、反省した事を全職員で共通理解する必要があるのでは、周知の工夫が必要
	環境	クラス・廊下・共有場所・避難経路の整理整頓ができており安全が確保できている 遊具・玩具等点検を行い修繕されている	消毒等でも玩具の点検を行い不備をヒヤリハットで共有出来ていたが、棚の上など、定期的に意識しないと物が増えてしまうクラスもある		○			ヒヤリハットを常に全職員で気付ける様、都度の声かけや、定期的な意識の呼び起こしに心掛けていく

保健・食育	マニュアル理解	感染症マニュアルは実効性のあるものが策定されており、職員が内容を理解し、感染症や疾病についての知識を持ち対応できている	流行時期の前に感染症についての知識を学び、保護者に説明できるようMTで実践的な研修が出来た 嘔吐処理をMTで再確認し、どの職員でも出来るようにする		○			感染症の知識としては研修毎に出ていたが、保護者への説明がどの職員でも同じ様に出来る為には定期的な確認と話し合いが必要になるので、その都度実施する
	健康	健康に過ごすために年齢にあった習慣が身についている	身の回りのことを自分でやろうとする意識を付けるよう考える事は出来ていたが、保育士によってはその子の成長に合っているかの見極めがズレる事がある		○			身の回りの事を自分でやる事に嬉しさや自信をもつためには、その子の発達段階に合っているか、声かけの内容や援助の段階が適切な見極めがより必要なので、他職員とも話し合いをしながらのその子のやる気や意欲を引き出せる関わりを考えていく
		自ら体を動かすことで心と体の健康を保つ取り組みを行っている			○			食事に対して、子どもに合った食事や関わりが難しい保護者もいるその都度形状や飲み込みなどで気をつける事、時間帯や食への意欲に対する話をその家庭ごとに考えながら話していく
	食育	食に興味を持てるよう給食職員と連携しながら取り組みをしている	給食職員も含めて丁寧な声かけや一口でも食べてみる声かけが出来少しづつ食べられる子も増えたが、絵や写真を使ってスプーンの持ち方や椅子の座り方も伝えていたが、声かけが必要な子も多い		○			園でも野菜に触れてみる、育ててみる、絵本などで意識を促すなどの食育で食べてみたくなる関わりを考えていく
		発達に応じた食事のマナーを伝えている			○			

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
組織運営	組織体制	コミュニケーションやチームワークを大切にした組織運営ができている	それぞれの役割については、それぞれ考えて園長やミドルリーダーと連携し実行しようとしているが、全体を巻き込む動きが人によっては難しかった。また、パート職員までの伝達が上手くいかない時もあり、お互いに気に掛ける事で伝わっていたが、スムーズな情報共有とは言えなかった		○			クラスで行き詰ってしまっている事柄も全体へ相談を掛ける、新しい意見をもらう、など困り感だけで終わらせない様、全体で取り組んでいき、出た意見を保育に落とし込めるようにしていく
		園長を中心に役割分担と責任が明確にされ迅速な対応ができる体制があり、担当の役割を全うできている	また、それぞれのリーダーや係で考えている事も発信が遅くなったり、ねらいの伝え方が曖昧になってしまいう事もあったので、余裕を持って具体的に伝えられる様にしていく			○		また、それぞれのリーダーや係で考えている事も発信が遅くなったり、ねらいの伝え方が曖昧になってしまいう事もあったので、余裕を持って具体的に伝えられる様にしていく
		打ち合わせや会議・MT等が適時行われ、情報共有がしっかりとできている	その都度のショートMTなどで話し合いは行えていたが、研修を保育に取り込んでいく事が難しい職員もいた			○		
						○		
研修	研修の充実と質の向上	園内研修担当者が中心となり園の課題や園が目指す保育の充実について学びの場や語り合いの場が活発に作られている	環境リーダーが中心となって各リーダーと話し合った事で、その都度の話し合いや方向性の確認などは行えていた		○			環境リーダーを中心に、新たに作った研修リーダーと協力して来期も継続して環境やその都度の問題点をショートMTなどで取り上げていく
		園外研修へ参加し自身の保育の質の向上に努め園内の保育に活かされている	研修に参加した報告を行っていたが、うまく保育に取り入れられないクラスもあったので、取り入れ方、実際の振り返りなどまで全体で行えるようになる必要がある			○		話し合った内容を保育に取り入れられる様、取り入れ方や実践する事柄まで話し合い、振り返りを全体で行っていく事で保育士自身が自信を付けていく
家庭保護者と連携	保護者支援	保護者が子どもの想い・成長・発達を受け入れ子育てできるよう配慮している また保護者が子どもの最善を考え行動できるよう支援している	様々な考えの保護者がいる中で、保護者側の困り感や気になる事をなるべく聞いた上で園での現状や気になる事を伝えるようにし、伝達やドキュメンテーション等を通して全職員で共有してどの職員も保護者と話せるよう心掛けた		○			ドキュメンテーションに今後の展開を入れながら、保護者にも現状の遊びが何に繋がっているか等が伝わる様にしていく
	家庭との連携	保護者との信頼関係が築けており、保育園での子どもの様子を伝え喜びやつまづきを共有し共に育てている 園と保護者で子どもの様子や成長を共に楽しみ喜び合っているような取り組みをしている	保護者の気になる事が園との話に全て繋がるわけではないが、一緒に考えていく事で保護者にも園で挑戦している事や気づけている事を家で気に掛けて貰える様伝え実践してくれた家庭もある 成長を感じている事は連絡ノート等でも感じる事が出来たが、心理相談など保護者の助けとなる保健センター等との連携は引き続き取りながら、話をしていく必要がある			○		その上で保護者と子どもとのコミュニケーションツールとしても話しながら活用する 保護者の気持ちや生活時間帯を中心に考えている家庭もあり、子ども側の気持ちに気付いていない保護者もいる 保護者の考えを聞きながらも子ども達の今後の為に動いてもらえる方向を話し合っていく
近隣連携の学校	(保育園)就学に向けた学校とのつながり (小規模)年少進級に向けた連携園とのつながり	(保育園)公開保育開催や公開授業へ参加、地域の情報交換の場へ参加し小学校との連携を図り就学がスムーズに行われるよう努めている (小規模)連携園との交流を行いスムーズに進級できるよう努めている	はとりこども園の園庭開放へは定期的に行けていたが、もっと来てほしいよとはとりこども園側からも声を掛けて貰ったので、どのクラスが行っているから、ではなくどのクラスも頻度を上げていきたい はとりこども園以外にも転園する園児が多かったので、連携園以外にも園児の様子や家庭状況について連絡を入れた		○			来期は水曜日ははとりこども園園庭開放にきのいい羊が被ってしまう日があるので、うさぎ組は可能な限りで足を運ぶようにしていく はとりこども園だけでなく、他園に転園する子がいたり年により違うので、連携はそれぞれと連絡を取りながら行っていく
近隣連携の地域	地域に親しまれる園作り	豊かな経験がはぐくまれるように、地域の様々な人と場に関わる機会を大切にしている	近隣介護施設のやまやとは例年通り交流を深めることができ、子ども達もやまやに行く事に緊張感無く楽しめている 避難場所のまはえにも年2回避難させて貰っているが、交流は難しかった		○			やまやとは引き続き交流をしていく まはえがコロナ禍で交流が出来なくなっていたが、緩和されてきているので手遊びの披露などから交流を戻していく